

こへじのう



48

2022.12

掲示板

- 特集 高次脳機能障害～働き方アラカルト～
- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告

こへじのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関する情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。



「治療と仕事の両立支援」

産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座

教授 佐伯 覚
さえき さとる



千葉県の皆さん、はじめまして。私は福岡県にある産業医科大学のリハビリテーション医学講座の佐伯と申します。本学は私学ではありますが、国(厚生労働省)の管轄下で運営されており、産業医を養成する目的で1978年に設立されました。産業医は企業の従業員の健康管理を担当しており、法律で配置が義務付けられています。現在、リハビリテーション医療の診療を行っている私も数年間大手鉄鋼会社の産業医を務め、産業医として高次脳機能障害を有する従業員の復職にも関わりました。現在は、本学大学病院が福岡県の高次脳機能障害支援拠点機関でもあり、高次脳機能障害者のリハビリテーション医療として社会復帰支援や自動車運転再開の支援を行っています。

2016年厚生労働省は働き方改革の一環として「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」を公表し、具体的な取り組みを始めました。当初は、がん患者さんの仕事と治療の両立を支援するのが主でしたが、その後、医療的ケアが必要な脳卒中や心疾患患者さんへも対象が広がりました。両立支援コーディネーターが、患者さんの治療と仕事の両立を図るために、医療機関(主治医)と企業(産業医)の連携を進めて就労を支援するシステムで、脳卒中による高次脳機能障害の方への支援にも活用が始まっています。本システム運用構築に携わった者の一人として、多くの方に知っていただき活用が進んでゆけばと考えています。今後共、よろしくお願い申し上げます。

佐伯先生が講演される講習会紹介

第19回高次脳機能障害リハビリテーション講習会

今年度の講習会は皆様からのご要望が多い就労がテーマとなっております。佐伯先生には本講習会で講演をしていただく予定です。詳細はP8をご覧ください。



第19回 高次脳機能障害リハビリテーション講習会



2023/1/21(土) 千葉県教育会館大ホール(千葉市中央区中央4-13-10) 定員150名 13:00-16:00(受付12:30)

講演会 90分

高次脳機能障害者の治療と仕事の両立支援

講師 佐伯 覚氏 産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授

- 1988年 産業医科大学医学部卒業
- 1995年 門司労災病院リハビリテーション科・副部長(1998年、部長)
- 2000年 産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座・講師
- 2002年 同上・助教授
- 2012年 同上・君松病院リハビリテーション科・診療教授
- 2015年 同上・医学部リハビリテーション医学講座・教授
- 現在に至る

ミニシンポジウム 60分

高次脳機能障害を抱えながら働き続けるために

～当事者・企業・支援者それぞれの体験談から～

シンポジスト

- 司会者 伊藤 里美氏 株式会社JALカーゴサービス 安全品質推進部勤務
- 企業 長谷川 好美氏 株式会社JALカーゴサービス 総務部
- 支援者 若川 久美江氏 千葉県千葉リハビリテーションセンター 更生室

参加費 無料

どなたでもご参加できます

高次脳機能障害者の就労支援

誰でも参加OKだよ～!



第19回高次脳機能障害リハビリテーション講習会

日時: 2023年1月21日(土) 集合研修 13:00-16:00
 場所: 千葉県教育会館大ホール
 対象者: 高次脳機能障害者に対する支援を行っている、または高次脳機能障害に関心がある千葉県内の事業所や医療機関にお勤めの支援者

高次脳機能障害地域支援者向け連続講座2022

第4回 日時: 2023年1月13日(金) 集合研修 14:15-16:15
 場所: 千葉市市民会館小ホール
 対象者: 高次脳機能障害者に対する支援を行っている、または高次脳機能障害に関心がある千葉県内の事業所や医療機関にお勤めの支援者



coming soon

『高次脳機能障害 サポートガイドブック』発行間近!!

昨年取り掛かっているガイドブックがいよいよ発行段階となりました。地域の皆様のお役に立てるガイドブックとして、新しい年にはお手元にお届けしたいと思っております。

TEL 043-291-1831

問合せ先 千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域支援センター高次脳機能障害支援部 [高次脳機能障害支援センター]

申込方法 裏面に申込方法があります QRコードからも申込できます

申込締切 1月13日(金)



この講習会は一般社団法人日本損害保険協会の助成を受けて実施しています

編集後記

■寒くなるにつれ暖かいモノや人が恋しくなりますよね。ウールのセーターを身にまといアツアツのシチューで体も心もほっこり。そして一緒に「おいしいね」と言ってくれる人がいれば、ほっこり度はさらに上昇。コロナ禍の影響でまだまだ人との関わりが乏しい状況が続いています。はやくマスクを外して笑顔で笑いあえる日が来るといいですね。その日を夢みてとりえずマスクの下で口角上げて笑顔の練習を欠かさない私です。(四代目H)

■東京都が配布を始めて10年の『ヘルプマーク』。先日新聞で利用者の役に立っていない問題があると知りました。昨年の調査では7割の方が「役立っていない」「どちらかという役立っていない」と回答したそうです。今秋、人気歌手のアルバム特典グッズを巡り話題にもなり認知度が上がって良い流れだと思ったのに…。ヘルプマークは外見からはわかりづらい障害を持った人の助けのアイテム。今更ながらですが、利用者の立場で考えられたものなのかと思うYでした。(Y)



こへじのう 掲示板

2022.12 vol. 48

発行日 ■ 2022年12月5日
 発行 ■ (社) 千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハリ-ョンセンター 千葉市緑区善田町1-45-2 TEL 043-291-1831(代) 内198
 発行責任者 ■ 地域支援センター 高次脳機能障害支援部 部長 長谷川 純子 [高次脳機能障害支援センター]
 http://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからご覧いただけます





令和4年度
関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

2022.11.18

Web開催

本会議では、①国立障害者リハビリテーションセンターからの情報提供、②ブロック間の情報共有・意見交換、③グループセッションが行われました。①では地域生活支援事業障害者ピアサポート研修事業、回復期リハ病棟や外来における支援の更なる強化等についての質問への回答がありました。ピアサポート事業については、富山県を例に挙げ、昨年度より高次脳機能障害領域のピアサポーターの育成が開始されたとの話がありました。研修を受けた当事者は、当事者会での活動を中心に活躍されているそうです。

医療領域における更なる強化については、現状、国からの動きはなく、現行の制度でどう取り組んでいくかを各県で考えていくことになる、との回答でした。②では自動車運転支援、小児期〜若年層の支援、コロナ禍、普及啓発・ネットワーク構築などの領域で活発な意見交換がありました。③はブロック会議では初めての試みとのことでしたが、限られた時間の中でさまざまな意見が交わされ有意義な時間となりました。



令和4年度
第2回、第3回、第4回千葉県脳損傷者運転支援連携会議

2022. 6. 7

2022. 7. 22

2022.10.14

Web開催

昨年度発足した当会議は、今年度に入り現在までに3回行われました。参加施設も1施設増え14施設となりました。第2回の会議では、千葉免許センターにも参加いただき、各医療機関との活発な意見交換が行われました。第3回、第4回では、県内の医療機関共通で利用できる運転支援のための情報シートの作成・運用、免許センターと県内の医療施設との意見交換を反映した診断書書式の一部改訂などの紹介、また各医療施設における運転支援に関する取り組み状況などについて活発に情報交換が行われました。今後も定期的に会議を開催し、運転支援に関わる県内の動きについて共有していく予定です。



高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

日本作業療法学会でポスター発表をしました!!

京都で行われた第56回日本作業療法学会でポスター発表を行いました。3年ぶりに現地開催された様子を支援センターだよりで掲載します。



▲会場で発表されたポスター



▲発表者の岡本美希子作業療法士

「高次脳機能障害者を地域生活に繋ぐための支援を通しての一考察 高次脳機能障害支援センターの事例から」というテーマで、高次脳機能障害の方が社会生活に戻った後に、入院中には見えづらかった困り事に直面し、再度地域生活に繋ぐ際に必要な支援の在り方について、ポスター発表をしました。学会は、現地開催とWebのハイブリットで行われました。現地開催は3年ぶりでした。ポスター発表では、多くの方々に質問をいただいたり、意見交換をすることができたりと、対面だからその充実感を得ることができました。質問の中で、「高次脳機能障害支援拠点機関を知らないリハ職もいると思う」との声が聞かれました。まだまだ普及啓発に努めていく必要性を感じました。個人的には高次脳機能障害支援部に異動してからは、今回初めて日本作業療法学会に参加したため、高次脳機能障害に関する発表を中心に見て回り、より深い知見を得ることができました。各地で行われている様々な取り組みを今後の業務に活かしていきたいと思えます。



▲開催地の京都はアートが楽しい。

『2022家族のつどい』第1回を開催しました!

高次脳機能障害支援センターでは、センター利用のご家族を対象に『家族のつどい』を実施しています。

今年度第1回目の家族のつどいは、講義を聞き、その後ご家族で交流をしていただく形で形行い8名の方が参加されました。また、新型コロナウイルス感染症の関係でお集まりになれないご家族には、後日講義をWebでご覧いただけるようにしました。講義は、当センターの高次脳機能障害外来担当の先崎医師が、実は自らも支援が必要な複数の家族を持っている身だという告白からはじまり、実際に当事者を支える家族としての長年の経験から、障害のある人を支え続ける家族がいかに精神的に大変であるか、また疲れすぎないためのポイントについてお話しして下さいました。



▲講師の先崎章先生

働き方アラカルト

「働く」ことは、単にお金を稼ぐだけでなく、人と関わること、社会と繋がること、次の目標に向かうこと、生きがいややりがいを感じることも…その人ごとに意味があるのではないのでしょうか。働く目的がさまざまであるように**働き方も人それぞれ**です。今回は、サポートを受けながらも**自分らしく働く「福祉就労」**という働き方を特集しました。

働き方いろいろ

就労継続支援A型

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います。（厚生労働省のHPより）



就労



障害者雇用

ユニバーサル就労

就労継続支援B型

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います。（厚生労働省のHPより）

地域活動支援センター

障害者等が地域活動支援センターに通うことにより、創作的活動または生産活動を行い、社会との交流促進等の便宜を供与します。



就労相談機関

障害者職業センター

障害のある方に対して、ハローワーク（公共職業安定所）と協力して、就職に向けての相談、職業能力等の評価、就職前の支援から、就職後の職場適応のための援助まで、個々の障害のある方の状況に応じた継続的なサービスを提供しています。

障害者就業・生活支援センター

就職や職場適応などの就業面支援ばかりでなく、生活習慣の形成や日常生活の自己管理などに関する生活支援も重要なため、就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を身近な地域で提供するセンターで、県内に16箇所あります。

ユニバーサル就労

社会福祉法人 生活クラブ
生活クラブ風の村グループホーム作草部

並木友貴さんは、ユニバーサル就労という働き方で私たちの施設の一員として働かれています。ユニバーサル就労とは、障がいや就労ブランクといった人それぞれの要因によって社会に出て働くことが難しくなってしまった方が、ありのままにその人らしく、能力や体調を考慮し、負担の少ない働き方をしていく事で社会との繋がりを構築し、社会の一員としての役割や自信を持つことが出来ることを目指した働き方です。並木さんは高次脳機能障害の影響で疲れやすく、体調も崩しがちです。時には仕事をお休みされることもありますが、働いている時は笑顔を決して絶やさず、ご利用者様への声掛けも優しく積極的にして下さいます。勤務の後半にはピアノの演奏をして下さり、ご利用者様にとって心地よい時間を提供して下さいます。私はピアノが弾けません、並木さんは弾くことが出来ます。私にできない事でご利用者様を楽しませることが出来ます。一人ひとり凸と凹があって、それで社会は成り立っていると思います。これからも一緒に働けることを嬉しく思っております。



就労継続支援A型

NPO法人 タオ

学生時代に障害を発症したCさんは、卒業後すぐに一般就労を目指すのはハードルが高いと考え、段階的にステップアップしていくことに決め、B型就労から開始しました。DM作業（ラベル貼り・封入・封緘）といった仕事に取り組み、メモを使って手順を記憶、注意点などの記録をおこない、その都度見直すことで正確性を向上させていきました。短時間から始められ、ノルマもないので、焦ることなく自分のペースで集中力と持続力を伸ばし、自信をつけることができました。その後、週30時間就労が定着、仕事の質も高く維持できるようになったことでA型就労へ移行。食堂での仕事を始めました。ホールのセッティング、調理補助、



会計、配膳、洗いをするといった各作業に加え、お客様対応も並行しておこなうことになり、慣れるまで時間はかかりましたが、迷った時には自己判断せずに職員に聞いてからおこなうことを決め事として、チームワークを意識して頑張っています。

就労継続支援B型

NPO法人 タオ

就労継続支援B型事業所、タオ浦安で働く20代の利用者Eさんは、高次脳機能障害と知的障害を持っています。特別支援学校在学中は、企業への一般就労や就労継続支援A型での雇用型就労を目指し、実習を行っていましたが、就労時間が決まらず、相応の作業能力が求められるという働き方にプレッシャーを感じ方針転換。無理なく短時間から始められ、背伸びせずマイペースに働けるB型就労（非雇用型就労）を選択。現在はDM作業（ラベル貼り・封入・封緘）といった仕事に取り組んでいます。例えば、封筒と封入物を100枚ずつ受け取り、封入が完了したら職員に手渡し検品してもらう、という工程を繰り返します。仕事の特徴は、工程が少なく、共同作業でないことから混乱が起きにくいという点です。現在は週30時間働いて、1月の工資は約4万円ほど。定年もないので、これからも健康を維持して、長くこの職場で働いていくことが目標です。



実際にはそう...



支援機関に聞いてみました！

地域活動支援センター

地域活動支援センターココ

50代のDさんは、介護保険サービスと併用してココに就労目的で通われていました。就労にあたり、①体調管理や疲労のコントロール、②休む際の判断基準、③公共交通機関の利用に課題がありました。支援内容として、①予定表振り取り用紙を用いて作業毎に疲労を確認し用紙に記入を行ってもらう（見える化）、様子を確認しながら休憩等の促しを行い②話し合いにて休む判断基準を取り決め書面にまとめて渡し、判断に迷った際には書面を見るよう促しました。③まずは、自宅～ココ間の公共交通機関利用を段階的に増やしていきました。その際、実際にバス停の確認に行き、もしもの時（バスに乗り遅れた場合等）の対応についても確認をしました。また、上記の対応と併せて3ヶ月に1度ケアマネージャーへの利用状況の報告と担当者会議に参加し課題の共有を図り最終的には、就労継続支援事業B型に移行することとなりました。



記の対応と併せて3ヶ月に1度ケアマネージャーへの利用状況の報告と担当者会議に参加し課題の共有を図り最終的には、就労継続支援事業B型に移行することとなりました。



支援機関に聞いてみました！

就労継続支援B型

特定非営利活動法人 C'sコミュニティ

50代のFさんは大企業の技術職で働いていましたが、ご病気により高次脳機能障害が残りしました。C'sコミュニティは、2021/10に佐倉市志津にオープンした就労継続支援B型事業所です。Fさんは長い入院生活を経て実家へ戻りリハビリと社会参加を目的に疲れに配慮して週4日の通所が始まりました。記憶障害の為、単独外出は難しく最初はご家族が送迎されました。通所1か月後作業にも慣れてきたので、自宅から一人で歩いて通所できるよう支援者と練習を開始（片道15分）。1週目は支援者と一緒歩き目印となるお店の看板やコンビニを覚え、2週目は地図を持ち一人で歩き、後から支援者が付いて見守り、3週目は中間地点にあるコンビニで支援者と待ち合わせをして、3週間程で単独通所できるようになりました。Fさんはとても明るくお笑いのセンスがあり周囲を笑わせてくれます。「営業職だったので、接客も得意で、受け答えにちょっとしたユーモアを入れてくれるサービス精神があります。「今」を明るく生きているFさんには、病気になっても障害を負ってもこうありたいなと思わせてくれる力があります。





高次脳機能障害者地域支援者向け連続講座2022
【第2回】2022.9.9 【第3回】2022.11.4 集合研修

14:15-16:15 千葉市民会館小ホール



▲第2回の様子(9/9千葉市民会館小ホール)

2019年度から始まった地域支援者向け連続講座も今年で4回目を迎えました。集合研修のみの開催は2年ぶりです。支援者の皆様と直接お会いできる機会となり、会場の熱を肌で感じながらお話できた研修会となりました。ご参加された皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。当日の参加者は、第2回が66名、第3回は51名でした。最終となる第4回は来年の1/13(金)『各論:社会的行動障害・失語症』で精神科医の先崎章先生がお話します。(お申込みは12/28まで)皆様のご参加をお待ちしております。

『青年期 当事者・家族合同グループ』のイベント
集合研修

2022.10.8 10:00-12:00 千葉リハビテーションセンター



参加者14名

開催されたイベントは14名の方が参加され、大変盛況な催しとなりました。今回は「働く先輩の声を聞こう」と題して当事者ご本人とお母様に講師をお願いし、学校卒業から就労に至るまでのお話を頂きました。これから社会に出ていく参加者へのメッセージ等を聞いた後、親子分かれての交流会も行いました。アンケートでは「先輩の話がきけてよかった」「自分に合った働き方を探したい」「将来の道筋に希望がもてた」等の感想を頂きました。今後も皆様のお役に立てるような企画を検討中です。

第18回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会
集合研修

2022.10.21 19:00-21:00 千葉市民会館小ホール



参加者114名

▲講師の石原健司先生

高次脳機能障害の臨床に携わる上で脳画像を読み解くことは、患者様の状態と障害像を掴むために不可欠な要素でありながら、独学で読み解けるようになるにはハードルの高いテーマでした。今回の懇話会では、実際の動画や音声を示していただき、症状が脳画像の中にどのように映し出されているのかを、わかりやすく講義いただきました。脳画像に関しては初学者である私にとって、これからの学びと臨床の礎となったと思います。日々の臨床にも活かせるよう、今後さらなる研鑽を積んでいきたいと感じました。

2022当事者・家族のための高次脳機能障害勉強会
Web開催・集合研修

2022.10.19 14:00-15:30 千葉リハビテーションセンター



参加者8名

当事者・家族のための勉強会が今年で3回目の開催となりました。千葉リハでの集合研修・ご自宅視聴できるWeb研修に加え、亀田リハビリテーションセンターや地域活動支援センターで当事者・ご家族の方を集めて視聴していただき、約50名の方が各々参加しやすい形で受講されました。今年は「高次脳あるある」を中心とした構成とし、「ミスが見つからない!」(注意障害)、「どこに置いたか忘れちゃう!」(記憶障害)など、具体的な事例を挙げて、各症状に対する工夫・対応をご紹介しました。アンケートでは「全体的に内容が具体的であり、どういったアクションをしていけば良いかがわかりやすかった」などの声がありました。

旭神経内科リハビリテーション病院

社会復帰に向けた集団訓練「さくらの会」では、11月11日にオンライン方式を利用した多施設同時開催のプログラム「WEBお茶会」を計画しております。昨年度の開催では概ねご好評を頂きましたので、参加事業所をさらに増やして実施予定です。また、普及啓発として、今年度は「就労支援」をテーマにして活動しております。院内では、症例の入院から退院後までの経過を、支援した看護師や医師、療法士が紹介するといった勉強会を開催しています。外部向け講演会としては「就労に向けて回復期病院で大切にしている事」をタイトルに、千葉リハビリテーションセンターの皆様にご協力を頂いてオンラインでの開催を12月7日に予定しております。



▲集団訓練「さくらの会」の様子

亀田リハビリテーション病院

当院では10月22日に南房総高次脳機能障害家族と当事者の会の開催に併せ、千葉リハビリテーションセンター主催の『当事者・家族向け高次脳勉強会』をオンデマンドにて受講しました。約20名の当事者とそのご家族様、支援者が参加されました。改めて高次脳機能障害とは何か、どのような対応が良いか振り返りが出来たと感想を頂きました。また10月26日はいすみ圏域の就労支援事業所ピア宮敷主催で支援者向けに『高次脳機能障害とは〜知っておいて欲しいこと〜』と題し研修を行いました。困った時の相談場所として高次脳機能障害支援拠点機関があることを説明し『是非相談させて下さい』と大変盛況な研修となりました。



▲10/22千葉リハ主催、当事者家族勉強会の様子



▲10/26支援者向け研修会

総合病院 国保旭中央病院

7月1日(金)に「就労支援についての意見交換会」をオンラインにて開催し、近隣のリハビリテーション病院および障害者就業・生活支援センターの皆さまと、意見交換会を行いました。就労支援における体制整備に関することや、当事者及びその家族の障害への理解に関すること、雇用先との連携に関すること等が話題に挙がり、各施設での高次脳機能障害者に対する就労支援の現状や課題などの情報共有を行い、今後の対応についても話し合うことが出来ました。12月には対面での研修会を開催予定です。各施設との情報共有や連携をこれまで以上に密にしながら、圏域全体の取り組みとして高次脳機能障害者支援を推進していければと考えております。

令和4年度 高次脳機能障害支援研修会
高次脳機能障害について知ろう!
～脳疲労と注意障害～

日時:令和4年 12月1日(木) 13:30~16:00(受付13:00~)

会場:総合病院 国保旭中央病院 本館3階 さいわいホール
対象者:医療・介護・福祉・就労支援機関等の関係者
参加費:無料
定員:50名(先着順)

※研修会終了後の懇話会(有志のみ)は、会場にて個別に開催いたします。
※2次参加 2次参加費 2,000円(研修費・研修資料費)の別名義で

内容

- 講義1「脳疲労について」
講師:旭中央病院 リハビリテーション科 作業療法士 高木 智世
- 講義2「注意障害について」
講師:旭中央病院 リハビリテーション科 作業療法士 林 真也
- 事例検討「注意障害者への支援について考えよう」
報告者:旭中央病院 リハビリテーション科 作業療法士 木村 亮希

申し込み方法:QRコードをダウンロードし、URLより申し込みください
<https://forms.gle/gAaTQWtHa893ub8>
申込み締切:令和4年11月25日(金)迄

主催:総合病院 国保旭中央病院
共催:障害者就業・生活支援センター 東総就業センター

お問い合わせ:
総合病院 国保旭中央病院 リハビリテーション科 今野 洋
TEL:0479-63-8111 Mail:katorika@soujib@gmail.com

▲旭中央病院主催の研修会のちらし

千葉県内には千葉リハの他に、地域支援拠点機関が3つあります。毎月3つの支援拠点機関の取組みや情報を掲示板のなかで発信していきます。